

創立二十八年紀念歌

文 三 桑 野 豊 助

1 東肥託摩の空高く
 白河の流影ゆるし
 憧憬若き旅は
 2 今銀城の秋たけて
 龍嶺にしき紅葉の
 三年を契る友と我
 3 時は遷りて季の世の
 濁世の潮のただ中に
 捧げし剛と朴の劔
 4 あゝ我意氣はうら若し
 胸に至純の血ぞゆらぐ
 溷濁の波漚きどめし
 5 花はうつろい人は去り
 その燦爛の光榮の跡

蘇山の煙とこしへに
 桃源の夢慕ひよる
 龍南永遠に春なれや
 武夫廣原の草いろひ
 花に百世モトセの齡なく
 さらばしばしの影と影
 懦弱の風に人は染む
 矜持マカキゆたけき若人の
 鐵テツの欄ソカのいや固し
 節を守りて義を慕ひ
 救世に燃えし及こそ
 勇士が高き譽なれ
 齡流れて二十八
 夢はふたゝび歸らねど

詩情は掬みて盡させざる

今日のつごいの尊さよ

9 往時の榮の繪巻物

くりて笑ふか月見草

夕月戀ふる下陰に

昔偲ぶの歌よべば

松籟共に凝りなして

紀念の祝歌や響くらむ。

第二十八回紀念式を歡びて龍南を歌ふ

一、三、甲二 鹽谷安喜

緑の露を湛へたる、松の樹の間、

明けゆく空のさす日の光に、

粲たる姿、不磨の明星の、

美はしきかも眼塔のごと、

時は未し、松の奏も音やめて、

録の草も和平^{やはら}ぎ伏せど、

千古の雪と永劫の日と、

抱きて俯せる大阿蘇の、心に似たる朝の思ひ、